

応用生態工学会ニュースレター
Ecology and Civil Engineering Society (ECESJ)
2006年(平成18年)3月7日(火)発行

No.32

(発行所) 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 第7 麹町ビル 25 号室
TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: see@blue.ocn.ne.jp HP:http://www.ecesj.com/
(発行者) 応用生態工学会(編集責任者:幹事長 江崎保男,事務局長 島崎由美)

Contents

1	はじめに	1
2	10周年記念大会について	1
	(1) 日程・会場	
	(2) 全体プログラム	
	(3) 実行体制	
	(4) 今後の予定	
3	平成18年度会費納入のお願い	2
4	大島康行先生ご逝去	3
5	理事会報告	3
6	大会実行委員会・幹事会報告	4
7	委員会報告	4
	(1) 情報サービス委員会の発足について	
	(2) 会誌編集委員会	
8	主催・共催行事報告	5
	(1) 「応用生態工学」論文作成指導セミナー	
9	今後の主催・関連行事等の案内	6
	(1) ICLEE 主催「東アジアの生態系修復に関する国際会議」	
	(2) 生態モデリング国際会議	
	(3) 情報サービス委員会提供関連学会の情報	
10	助成募集の紹介	8
11	新刊紹介	8

1 はじめに

ニュースレターNo.32号をお届けします。

10周年記念大会に関するお知らせ、会費納入のお願いとそれに関連して郵便局・銀行の振込み手数料の変更予定、国際英文誌学生価格新設など重要なご連絡がありますので、じっくり目を通していただけるようお願いいたします。

2 10周年記念大会について

今年2006年は、応用生態工学会が1997年10月に「応用生態工学研究会」として発足して以来10周年を迎えます。ニュースレターNo.31でもご案内したように、それにふさわしい行事となるようこれまで3回の会議(拡大幹事会、2回の実行委

員会)を実施してプログラムおよび実施体制を検討してまいりました。これからも検討によって多少変更が生じる可能性はありますが、現時点の全体プログラムをお知らせいたしますので、ご予定に入れておいてください。

【応用生態工学会 10周年記念大会】

(1) 日程・会場

開催日:2006年9月29日(金)・30日(土)・10月1日(日)
会場:東京大学農学部「弥生講堂」及び「東大生協農学部食堂」(懇親会)

(2) 全体プログラム

第1日目(9/29):研究発表会(口頭発表)
第2日目(9/30):研究発表会(ポスター発表および口頭発表),総会
第3日目(10/1):記念行事
午前:招待講演
スイス連邦環境科学技術研究所(EAWAG)
クレメント・トクナー博士
午後:記念シンポジウム「応用生態工学会の10年とこれから-生態と土木の壁はとりのぞかれたか?」
夕方:懇親会

(3) 実行体制

大会会長:小倉紀雄(前副会長)
実行委員会(2/22現在)
● 委員長:江崎保男(幹事長)
● 副委員長:熊野可文(副幹事長)
● 公開シンポジウム部会:島谷幸宏(部会長),中村太士,中村圭吾
● 記念シンポジウム部会:江崎保男(部会長),萱場祐一,谷田一三,辻本哲郎,島谷幸宏,竹門康弘,中村太士
● プログラム部会:星野義延(部会長)
➢ 一般小部会:関根雅彦(小部会長),角哲也
➢ ポスター小部会:星野義延(小部会長),風間ふたば,渡辺晋
➢ 現場報告活性化小部会:高橋和也(小部会),

内田朝子, 西浩司

- 会場部会: 熊野可文(部会長), 加賀谷隆, 高野安二, 井上修, 知花武佳
- 広報部会: 島崎由美(部会長), 長崎均

(4) 今後の予定

一般の研究発表の募集要項は6月のニュースレターに掲載, 一般の参加者募集は8月のニュースレターに掲載の予定です。過去2年と若干スケジュールがずれる予定ですのでお気をつけ下さい。

(予定)

研究発表募集開始: 6月中旬

研究発表募集締切: 7月末

講演要旨提出締切: 9月上旬

一般参加募集開始: 8月中旬

一般参加募集締切: 9月下旬

3 平成18年度会費納入のお願い

(1) 正会員・学生会員の皆様へ

皆様に次年度分の会費納入をお願いする時期が

まいりました。

同封の「会費納入のお願い」にはこれまでのご入金記録を記載しており、これを元に請求金額を書いてあります。

学生から社会人になる方はその分を変更してご納入くださいますようお願いいたします。

また、送付先、所属・勤務先の変更は決まり次第FAX、メールや連絡フォームにてご連絡をお願いいたします。

(2) 英文誌の学生会員価格新設

国際共同英文誌LEE(Landscape and Ecological Engineering)の年間購読料は、創刊した2005年度は共同発行の応用生態工学会、日本景観生態学会、日本緑化工学会の会員であることを条件として一律7,350円でしたが、2006年度分から学生会員価格が設定されることになりました。

学生会員価格は4,200円(年2号)です。

2005年度から購読していただいていた、来年度も学生の方は購読料が安くなりますので、その分

応用生態工学会 10周年記念大会 参加呼びかけ

1) 研究発表に今から準備を!

10周年記念大会では、特に、若手研究者や学生諸氏、各地域で活躍されている技術者、行政関係者、市民等これまで以上に幅広い層からの参加を期待しています。実益に富む技術、独創的な試み、ユニークな視点からの研究等バラエティーに富んだ発表をお待ちしております。今から準備を!

2) 各地域からの現場報告を!

研究発表は、例年どおり口頭発表またはポスター発表での募集となりますが、特に、各地域からの臨場感あふれる現場報告を求めます。

応用生態工学会が発足して10年が経とうとしていますが、この間に全国の山で、川で、海で、また街で、自然環境の保全や再生を目指したいろいろな事業が実施されています。皆さんのなかには、事業の計画策定や実施、モニタリングなどの作業に関わった方が大勢いると思います。現場実務者として事業に関わった建設業、コンサルタントの技術者や行政、市民の方からの積極的な発表を期待しています。

「当初はどうなるかわからないまま始めたが、紆余曲折を経て、今ではこんな風になっている。」
「いろいろ工夫も行って進めてきたが、今こんなことで困っている。」というような報告も歓迎します。応用生態工学会の研究発表会は、問題解決のヒントが得られる場でもあります。報告を通じて、より一層の情報の交換と人的交流を図りませんか?

(実行委員会では、現場報告の活性化を目指し、「プログラム部会」の中に、『現場報告活性化小部会』を設けました。)

3) 実行委員会に参加を!

9月の大会実施を目指して、大会実行委員会ではいろいろな準備をして行きますが、そのためには多くの課題が待ちかまえており、実行委員及び関係者が大いに議論を重ねて行く必要があると考えております。会員の皆様には、是非この大会実行委員会に多くの方々に参加していただきたいと考えております。事務局に実行委員会参加を申し込み下さい。

を間違えずにお振込ください。

LEEは国内3学会のほか韓国、台湾も含め合わせて7つの団体による共同発刊ですが、既に欧米からも投稿があります。これを機会に購読を始めようという方は、当学会ホームページの緑の **About LEE** のボタンから購読申込フォームへお進みください。

(3) 郵便払込料金の変更

会費納入のお願いにあたって郵便局の払込取扱票を同封しました。郵便局の窓口での振替サービスの料金が平成18年4月3日から値上がりします。会費の納入はお早めに！！

【通常払込み：窓口】

取扱額	現行	改定後
1万円まで	70円	100円
10万円まで	120円	150円

【通常払込み：ATMは変更ありません】

(4) 学会の銀行口座一部変更

応用生態工学会の振込み口座のある銀行が、去る1月1日に合併統合により三菱東京UFJ銀行に名称変更されました。

同時に支店名も変更になっていますのでご注意ください。

新銀行名：三菱東京UFJ銀行

新支店名：麹町中央支店

4 大島康行先生ご逝去

学会名誉会員であった大島康行先生が去る平成18年1月18日午後3時53分にご逝去されました(享年81歳)。

大島先生は平成9年の当学会(当時は研究会)発足時に発起人代表の一人として、多分野にまたがる研究者、技術者をお誘いいただき、平成9年から11年の立ち上げの時期に副会長としてご尽力くださいました。平成12年には名誉会員になりましたが、引き続きいろいろとご指導いただきました。平成14年に学術研究団体として日本学術会議に登録し、現在会員が1200人を超えるほどに順調に発展することができましたのも、ひとえに、大島先生の人を惹きつける魅力と包容力の賜物だったと言えるのではないかと思います。

会員の皆様はよくご存知と思いますが、大島先生は東京大学理学部植物学科をご卒業の後、東京都立大学、早稲田大学で植物生態学の教育・研究に携わり、平成7年に早稲田大学の名誉教授にな

られました。研究のみならず、日本生態学会長、日本植物学会長などを歴任され、また、財団法人自然環境研究センター理事長、環境アセスメント学会理事、各種委員会委員を務めながら、生態学の研究成果を社会に役立ててゆくことにご尽力されました。

昨年暮れに開催された河川生態学術研究会の合同発表会には、入院されていた病院を抜け出してまで出席され、会場からマイクを片手に力強くコメントされました。その姿には、癌に蝕まれているなどとは微塵も感じさせることのない、学者としての迫力を見せつけられた思いがしました。

私たちも大島先生のご遺志を忘れず、今後も学会の使命である生態学と土木工学の境界領域における新たな理論・知識・技術体系としての「応用生態工学」の発展のために頑張らねばと思えます。(会長 山岸 哲)

大島先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

5 理事会報告

【第31回理事会】

開催月日：2005年12月9日(金)18:10~19:50

会場：(財)リバーフロント整備センター会議室(千代田区二番町)

出席：山岸、谷田、辻本、大村、大矢、沖野、角野、竹村、竹門、福岡、古川、森下、江崎幹事長、事務局：島崎(記録)

委任状提出による出席：近藤、荒井、鹿野、春田
欠席：島谷、森

1) 報告事項

一般経過報告、会員状況報告等のほか、平成17年度活動の中間報告として地域における行事の実施状況、後援行事、幹事会、委員会についての報告が事務局および幹事長、委員長から行われた。また、英文誌については2006年6月に開催予定の国際会議計画進行状況および購読会員数について事務局から報告を行い、了解された。

2) 委員会担当理事および副幹事長について

前回理事会(第30回、2005年9月30日)で未定となっていた情報サービス委員会の担当について大矢理事にご担当いただくことになった。また、幹事会の副幹事長を熊野幹事(元事務局長)とする幹事会提案を承認した。

3) 10周年記念大会について

日程を9月29日から10月1日とし東京大学弥生講堂で開催すること、この大会には大会会長を置き小倉前副会長にお願いすること、海外からの招聘講師としてスイス連邦環境科学技術研究所チームリーダーのクレメント・トクナー博士を呼ぶことが承認された。また、11月21日に開催された拡大幹事会から提案された記念シンポジウムのタイトルの副題として「生態と土木の融合はあったか?」について「融合」について実行委員会に対しての再考を依頼することとした。その他予算、2007年度開催時期・場所についての検討が実行委員会に付託された。

4) その他

交流委員会、情報サービス委員会、編集委員会の活動方針などについて検討した他、次年度予算の検討を年度が始まる前に行うこととし、次回理事会は3月に開催することとなった。

6 大会実行委員会・幹事会報告

【拡大幹事会】

開催月日:2005年11月21日(月)10:15~13:50

会場:財)ダム水源地環境整備センター会議室(千代田区麹町2丁目)

出席:(幹事会)江崎,熊野,鎌田,角,高野,内田,萱場

拡大呼びかけメンバー:谷田副会長,辻本副会長,島谷理事,浅枝編集委員,井上(建設環境研究所),西(前事務局長・国土環境),渡辺(国土環境)

オブザーバ:山岸会長

事務局:島崎(記録)

この拡大幹事会においては、主として10年記念大会について議論され、日程・会場・記念行事としてのメニュー(海外からの招待講師、記念シンポジウムのテーマおよび講演者、パネルディスカッションに若手メンバーの登壇と発言を求めるとなど)、主な実行委員、成果物としての記念出版などについて議論した。その内容は前記の第31回理事会上に報告された。

【第1回記念大会実行委員会】

開催月日:2005年12月9日(金)19:50-22:00

会場:財)リバーフロント整備センター会議室(千代田区二番町)

出席:江崎幹事長,熊野副幹事長,竹門理事,萱場幹事,関根幹事,高野幹事,星野

幹事,高橋委員,長崎委員,渡辺委員,事務局:島崎(記録)

この実行委員会においては、3日間の大会プログラム案、役割分担、記念シンポジウム、記念出版、現場からの報告の活性化への希望が検討され、次の事項が決まった。

- 研究発表会の口頭発表は従来どおり一人15分とする
- 原則としてエクスカーションを実施しない
- 記念シンポジウムのタイトルについては、「融合」について再検討し、「応用生態工学会の10年とこれから-生態と土木の壁はとりのぞかれたか?」とする
- パネルディスカッションにおける若手メンバーについては講演者の内容が決まってから検討する
- 記念出版はまず10巻1号を記念シンポジウム講演内容の特集とし、その内容に事例などを加えて本とすることを検討
- 実行体制は広報部会、プログラム部会(一般小部会、ポスター小部会、地域事例小部会)、会場部会、関連学会部会、記念シンポジウム部会、公開シンポジウム部会とする

このほか、2007年の開催都市として仙台を、第2候補として名古屋を提案することとした。

【第2回記念大会実行委員会】

開催月日:2006年2月22日(水)15:00~17:30

会場:財)ダム水源地環境整備センター会議室(千代田区麹町2丁目)

出席:小倉,江崎,熊野,加賀谷,風間,鎌田,高野,井上,高橋,西,渡辺

事務局:島崎(記録)

この実行委員会においては3日間の大会プログラム案、予算、懇親会会場、今後のスケジュールについて検討した。また、ポスター発表のスペースの確認とこれまで以上にポスター発表の場所を用意できることから、より積極的に現場技術者からの報告的な発表をを求めることを議論した。

7 委員会報告

(1) 情報サービス委員会の発足について

情報サービス委員長 高橋 剛一郎
(富山県立大学短期大学部)

昨年9月に情報サービス委員会が発足しました。ここではこの委員会の活動内容について簡単

にご紹介します。

本委員会の活動内容は、応用生態工学に関係する関連学会や研究助成などの情報を集め、本学会員に知らせる価値のある情報をニュースレターやインターネットのホームページなどで会員に提供することです。情報の提供は、委員会が内容を取りまとめ、学会事務局を通して発信するかたちとします。

関連学会の情報としては、本学会に関連する内容のもので、その学会の非会員でも参加できる催しを中心に紹介し、土木学会や生態学会など、メジャーな学会の本大会は除きます。ただし、本大会の中のミニシンポやワークショップなどで上記に沿うものがあれば紹介したいと考えています。

委員会発足後約四ヶ月が経過しましたが、委員の人選や活動体制の構築に大部分の時間を費やしました。活動の大筋は決まっていますが、個別の内容についてはまだ具体的に決まっていない部分も多々あります。今後委員会でこれらのことを議論して詰めて早く本格的な活動ができる体制を整え、会員の皆様に役立つ情報を発信していきたいと考えおります。よろしく願いいたします。

なお、本委員会の構成は次のようです。

加賀谷隆	東京大学大学院農学生命科学研究科
風間ふたば	山梨大学大学院医学工学総合研究部
神宮司寛	秋田県立大学短期大学部農業工学科
角哲也	京都大学大学院工学研究科
高橋剛一郎(委員長)	富山県立大学短期大学部
中村圭吾	独立行政法人土木研究所
中村智幸	独立行政法人中央水産研究所

(2) 会誌編集委員会

開催月日: 2006年2月28日(火) 16:10~18:30

会場: 麹町会議室(千代田区麹町)

出席: 浅枝, 天野, 大野, 鎌田, 清水, 清野, 柳井

事務局: 島崎(記録)

1) 投稿状況と今後の特集について

中村前編集委員長が受け付けた論文は受理まで前編集委員が編集委員、著者とのやり取りをしている。受理済みの原稿もたまっており、9巻1号は特集なしで発行できる予定である。9巻2号は生態系モデル特集(仮称)で進める。

10巻1号は10周年記念大会の記念シンポジウムの内容をまとめた特別号とすることが、大会実行委員会で議論されている。

その後の特集について各編集委員の提案を求める。

2) 著者への指導と編集事務の軽減について

編集委員会として投稿後の論文に対して受付および受理の段階まで、担当編集委員の専門分野等の状況に応じてできるだけ助力するとともに、委員が関わっている事業および研究などから広く周知、公開すべき内容を学会誌に投稿するよう積極的に業務担当者に働きかける。このことを9巻1号に編集長名で意見として掲載することとする。

上記の指導を行う場合、より効率的にできるよう担当編集委員および著者の了解のもと、現状の編集委員長を通した原稿のやり取りを省略し、担当編集委員と著者の直接やり取りとを可能にする編集委員会内規を設ける。

編集事務の軽減と校閲期間短縮のために、原則として投稿を電子ファイル(pdfファイル)で受け付けることとする。このための投稿規程の改訂を理事会に図る。

次の段階として、J-Stageの投稿受付、査読・編集支援システムを利用する方向で検討を始めることについて理事会に図る。

過去の学会誌論文のJ-Stageでの公開

上記の編集業務のJ-Stage利用は今後の学会誌論文のJ-Stage上の公開が前提になるので、10周年を機会に過去の論文の電子化を記念事業の一部として予算化することを理事会に提案する。

8 主催・共催行事報告

(1) 「応用生態工学」論文作成指導セミナー

NPO「応用生態工学研究会」実施

NPO法人「応用生態工学研究会」が財団法人リバーフロント整備センター、財団法人ダム水源地環境整備センター、河川環境管理財団から受託し、学会編集委員会の協力によって平成18年12月15日に表記の論文作成指導セミナーを実施しました。

応用生態工学会誌の査読は厳しいという話がありますが、現場の技術者にとって論文の作成は不慣れなこともあり、形式のせいで受付の前にアドバイスを添えて著者に再構成・改訂を求める例がままあるという現状に対して企画したものです。資料として著者およびリバーフロント整備センターのご協力により、過去に投稿された原稿を使用しました。

具体的にどこにどのような問題があるのか？どこをどのように直し、どのような観点と解析が加われば事例研究あるいは原著論文として受理される論文となるのか？についてを段階を踏んで説明した大部のセミナー資料となりました。



セミナー当日の講師である中村編集委員長の説明も具体的で判りやすく、また大変熱の入ったもので、短時間ではありましたが演習の時間もあり3時間があっという間に経ってしまいました。

<受講者の声から>

- 具体的な原稿を材料にして、論文の組立て方を演習できたので、論文作成における留意点がすんなりと理解できた。
- 理解しているはずの事が再整理できた。ぼんやりと分かっていることを系統立てて理解できた。
- 技術者としてどのように論文を書くかというだけでなく、報告書を書く際にも留意すべき点を感じた気がします。

この資料はスポンサーのご理解により NPO 法人から実費で販売しています。ご希望の方は <http://www.ecesj.com/NPO/events/events.htm> で内容をご覧になりお申し込みください。

9 今後の主催・関連行事等の案内

(1) ICLEE 主催「東アジアの生態系修復に関する国際会議」

英文誌「Landscape and Ecological Engineering」を共同発行している国際コンソーシアムのうち国内3学会が実行委員会を組織し、6月16日から18日に開催する標記国際会議の準備が進んでいます(ニュースレター31号に2nd Circularを同封)。

発表および参加費の早期割引は1月末に締め切れられ、国内から180件、中国および韓国からそれぞれ16件のほかタイ、台湾、カザフスタン、ロシアなどから合計220件の発表申し込みを頂きました。この結果会場を増やし、8つのセッションを4つずつ平行して進めるプログラムを構成中です。

まもなく最終的なプログラムを ICLEE のホームページでお知らせいたします。是非この機会に各

国からの報告や情報の交換にご参加ください。

セッションタイトル

<6/16(金) 10:15-12:45>

1. Landscape ecological concept in ecological restoration planning
2. Management of rural ecosystems and biodiversity 1
3. Management and restoration of river and floodplain
4. Technology for ecological restoration

<6/16(金) 13:30-17:00>

ポスターセッション(100余題)

<6/17(土) 9:45-12:30>

5. Monitoring and evaluation of habitats.
6. Management of rural ecosystems and biodiversity 2
7. Management of watershed and wetland.
8. Policy and public involvement

<6/17(土) 13:30-17:00>

公開シンポジウム(同時通訳付)

公式ホームページ:

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsrt/ICLEE/ms.html>
(2) 生態モデリング国際会議

これまでもニュースレターで紹介してまいりましたが標記会議 ICEM 2006(International Conference on Ecological Modeling 2006) in 山口(応用生態工学会後援)が8月28日-9月1日の日程で開催されます。

発表のアブストラクト募集締切は2月末の予定でしたが3月19日まで延長されています。また、参加の早期登録締切は5末日です。以下のようなセッションが予定されています。

是非ふるってご参加ください。

- (a) Ariake Sea and Seto Inland Sea
- (b) Habitat models vs. ecological models
- (c) Biomass models vs. population models
- (d) Machine Learning / Data Analysis for Ecological Modeling
- (e) Theoretical ecology
- (f) Community modeling
- (g) Global environmental catastrophe
- (h) Modeling for natural reserve conservation

公式ホームページ:

<http://icem2006.civil.yamaguchi-u.ac.jp/index.html>

(3) 情報サービス委員会提供 関連学会の情報
土木学会水工学委員会河川部会 2006年度・河川技術に関するシンポジウム

新しい河川整備・管理の理念とそれを支援する河川技術に関するシンポジウム

- 1.開催期日：2006年6月7日[水]，8日[木]
- 2.開催場所：東京大学農学部 弥生講堂
(文京区弥生1-1-1)
- 3.参加費：一般6,000円，学生4,000円
(論文集代含む)
- 4.問合先：群馬大学工学部建設工学科 清水義彦
〒376-8515 群馬県桐生市天神町1-5-1
TEL: 0277-30-1642, FAX: 0277-30-1601
E-mail: sympo2006@ce.gunma-u.ac.jp
- 5.参考URL：

<http://www.cee.hiroshima-u.ac.jp/jsce/rivereng/conf2006.html>

<コメント>土木を中心とする河川技術に関するシンポジウムです。特定課題の中に『河川生態系の評価と保全・再生のための課題』(キーノートレクチャ:名古屋大学大学院工学研究科 辻本哲郎)があります。また、一般課題では『河川環境の保全や河川利用との関わり』などが入っており、河川環境に興味のある生態学者にとって有益なシンポジウムです。論文発表の申し込みの締切は過ぎましたが、参加は可能です。

土木学会 第50回 水工学講演会

- 1.日時：2006年3月7日(火) 13:00-17:00
- 2.場所：京都大学吉田キャンパス時計台記念館100周年記念ホール
- 3.プログラム：
司会：道奥康治(水工学委員会幹事長)
(1) 開会挨拶：辻本哲郎(水工学委員会委員長)
(2) 話題提供
1) 「近年の自然災害と河川整備の新たな展開」
谷本光司(近畿地方整備局河川部長)
2) 「都市水害の課題」井上和也(京都大学名誉教授，前京大防災研究所所長)
3) 「4種類の被害を減らすための『スマート』な対策」林春男(京都大学防災研究所教授)
4) 「河川行政の転換点」櫻井敬子(学習院大学法学部教授)
- 4.参考URL：
<http://www.jsce.or.jp/committee/hydraulic/2005/50th-gyohji.pdf>

世界的研究教育拠点の形成のための重点的支援
21世紀COEプログラム「生物・生態環境リスクマネジメント」第5回シンポジウム

生態環境リスクマネジメントへのアプローチ
- 丹沢山系から相模湾まで -

主催：横浜国立大学 21世紀COEプログラム「生物・生態環境リスクマネジメント」事務局

開催趣旨：

人間活動による生物や生態系に対するリスクを評価し、適切に管理するための環境科学の拠点形成をめざして、陸域、水域における生物・生態環境リスクの調査、評価、及びマネジメントの理念と方法論等について、国内外の関連機関と連携して研究を進めています。この度、丹沢山系から相模湾までの地域を対象とした事例研究を中心に「生態環境リスクマネジメントへのアプローチ」についてのシンポジウムを開催致します。奮ってご参加下さい。

- 1.日時：2006年3月22日(水) 9:50~17:10
- 2.場所：横浜国立大学 教育文化ホール 大ホール
(横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1)
- 3.参加費：無料(懇親会参加は3,000円)
- 4.参加申し込み・問い合わせ先：

氏名，所属，住所，E-mail，電話番号，Fax 番号，懇親会の出席/欠席を記入の上，下記の連絡先までお申し込み下さい。

横浜国立大学大学院環境情報研究院 COE 事務局
FAX: 045-339-4493, E-mail: eco-coe4@ynu.ac.jp
COEホームページ <http://bio-eco.eis.ynu.ac.jp/>

5.参考URL：
http://www.esj.ne.jp/esj/J_Spon/ynu_coe.html

地理関連学会連合シンポジウム

地域多様性と共生社会

- 世界の持続的発展のために -

趣旨(抜粋)

地球規模での社会経済活動の均質・画一化による地域の個性の喪失，また温暖化などによる地域生態システム崩壊の危機に際し，地理学の視点から地域生態システムの維持，管理に関する知識・知見を集約するとともに，「地域多様性」の概念を広く社会に啓蒙することをねらう。

- 1.日時：2006年3月27日(月)
- 2.場所：埼玉会館(〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4)
- 3.講演者

市川健夫(東京学芸大学名誉教授)

金田章裕(京都大学教授)

牧田肇(弘前大学教授)

4. 問い合わせ先: 日本地理学会国際交流専門委員会 (mura@atm.geo.tsukuba.ac.jp)

5. 参考 URL:

<http://www.soc.nii.ac.jp/ajg/union/news.html#news020514>

10 助成募集の紹介

昨年度から始まった「WEC 応用生態研究助成」の平成 18 年度の募集が始まりました。

1) 設立趣旨

ダム貯水池に係わる生態環境について調査・研究の促進を図り、その研究成果を発表し、社会へ還元するために研究助成を行います。

2) 助成対象研究者

大学、高等専門学校等の学校、独立行政法人等の法人、地方公共団体、公益法人、民間企業、NPO 法人、およびこれらに付属する機関に所属する研究者を対象とします。

平成 17 年度の助成対象研究者から、「独立行政法人等の法人」の方を追加致しました。

3) 助成期間

助成期間は原則として単年度または 2 ヶ年度とし、3 ヶ年度を上限とします。

4) 助成金

研究は、1 年度につき 100 万円以内とします。

5) 【平成 18 年度 指定課題】

「ダムに係わる生態環境のモニタリングもしくは事後調査等に関する応用的研究」

6) 募集期間: 3 月 1 日(水)から 4 月 5 日(水)まで(最終日、当日消印有効)

申請書提出、お問合先、募集要項、申請様式など詳細は下記 URL をご覧下さい。

<http://www.wec.or.jp/center/seido/joseikin/H18/boshu/joseikintop.htm>

11 新刊紹介

いのち

「生命の川」: 人類と自然にとって水の管理をいかにすべきかを示唆してくれる書

河川審議会(現在の社会資本整備審議会河川分科会)で河川整備の基本方針などが検討されるときには、どのような環境の河川にしたら良いのか、必ずしも明確ではなかった。その大きな原因のひ

とつは、望ましい河川の環境目標が樹立されていないことによる。私たちは、そのために、「河川環境目標検討委員会」や「多自然型川づくりレビュー委員会」、「河川生態学術研究会」などで、それを求めて積極的に研究してきたつもりである。

こうした状況の中で、私たちは本書と出会った。そして、本書に扱われている内容こそ、河川環境目標を考える際に重要な切り口の一つであろうと感じ、直ちに邦訳することを決意したのである。(「訳者あとがき」より)



第 1 章 川はどこへ消えたのか? / 第 2 章 河川にはどれだけの量の水が必要か? / 第 3 章 政策決定の道具箱 / 第 4 章 川の現実 / 第 5 章 積み木(BBM 法)に用いるブロック / 第 6 章 私たちは地球の河川を救うことができるか?

ISBN: 4-7875-8548-7

サイズ: A5 版 336 ページ

著者: S. ポステル, B. リクター

訳者: 山岸哲, 辻本哲郎

発行: 株式会社 新樹社

定価: 2,940 円(税込み)

<特価の情報は学会ホームページに掲載します。>

【編集後記】

2 月中に発送したかったこのニュースレター 32 号ですが、新年度に向けての事業計画等の検討や年度末ながらの新しい情報が日々更新され、つい遅くなってしまいました。申し訳ありません。新年度もどうぞよろしくお願いいいたします。

今回の一枚は我が家のベランダで既に花をつけたソラマメです。(事務局長: 島崎)



[2006 年 2 月 28 日現在会員数]

正(学生)会員

1,207 名

賛助会員

53 法人(81 口)